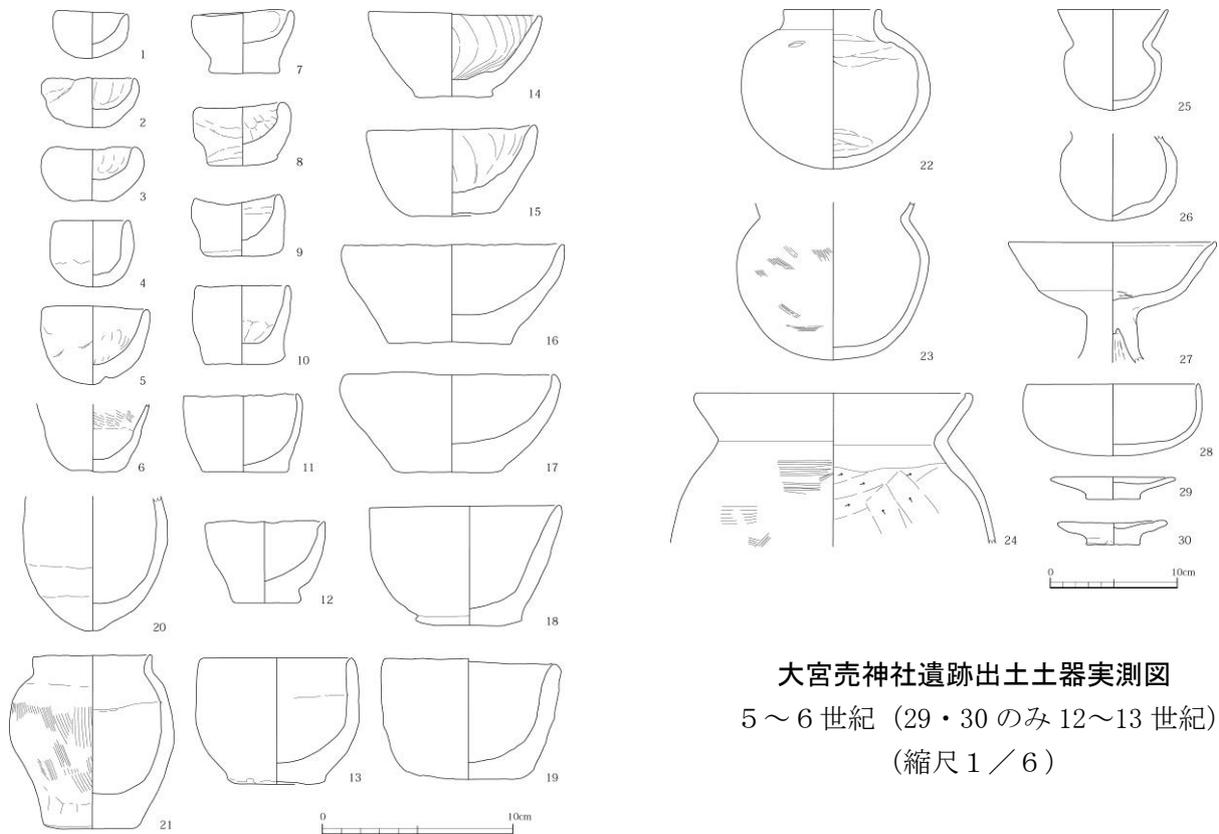


分類 番号	A5	取組 名称	京丹後市域の考古資料を中心とした文化遺産の整理と活用
研究代表者：	文学部	職・氏名：	准教授・向井 佑介
研究担当者：	京都府立大学（菱田哲郎・櫛木謙周・横内裕人・井上直樹） 外部分担者・協力者（和田省三氏、新谷勝行氏）		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）	京丹後市（京丹後市立丹後古代の里資料館）		
<b>【研究活動の要約】</b>			
<p>京丹後市大宮町に所在する大宮売神社所蔵の史資料の調査・整理を実施した。大宮売神社には、神社の歴史をしめす扁額や文書史料、境内遺跡から出土した弥生時代の土器、古墳時代の土師器やミニチュア土器などのほか、旧大宮町内の各所から出土した縄文時代の磨製石斧、古墳出土の須恵器や鉄器、中世経塚出土の経筒などが、未整理のまま社務所に保管されている。それらの史資料について、目録を作成して資料の全体像を把握した。とりわけ考古資料については、実測図作成や写真撮影などをおこなうなど、詳細な調査をおこない、また調査記録を本学に持ち帰り、整理作業を継続的におこなった。</p>			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<p>(1) 地域が所有する文化遺産の保全          たいていの地域には、産土神として人びとが信仰してきた神社があり、各地に博物館や資料館が建設される以前には、そうした神社に地域の文化財がもちこまれて保管されていることが少なくない。しかし、全国各地で神社の維持管理が課題となっている現在、地域の記憶を伝え、文化遺産を記録・保全していくことが大きな課題となっている。京丹後の大宮売神社を中心とした本研究も、そうした地域の課題に答えるものである。</p> <p>(2) 研究上の意義          大宮売神社は、その境内地から弥生時代や古墳時代の土器が出土し、神社成立以前から祭祀がおこなわれていた遺跡として知られている。今年度の調査によって、祭祀に係る遺物の年代が、古墳時代中後期の5～6世紀、とりわけ5世紀後半にその中心があり、また神社が成立した古代（8世紀頃）や中世前期（12～13世紀頃）の遺物もそれにまじって出土することが明らかになった。これにより、従来漠然ととらえられてきた神社の成立・展開の歴史をより明確にすることが可能となった。</p>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
<p>〈中間報告書〉          向井佑介「大宮売神社遺跡出土遺物の調査」          (『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第2号、2016年3月刊行)          ※本学図書館をはじめ全国の主要な図書館や大学で閲覧が可能</p>			
<b>【お問い合わせ先】</b>			
文学部 准教授 向井 佑介 Tel: 075-703-5269 E-mail: mukai@kpu.ac.jp			

参考 (イメージ図、活動写真等)



大宮売神社遺跡出土土器実測図  
5～6世紀 (29・30のみ12～13世紀)  
(縮尺1/6)

大宮売神社遺跡出土土器実測図  
5～6世紀 (縮尺1/4)



考古資料の実測風景 (平成27年8月)



古文書の調査風景 (平成27年8月)